

予科練 平和記念館だより



役場2階企画課内に予科練平和記念館整備推進室が発足しました。推進室では、予科練や海軍に関する資料や写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。

梅

雨に入り、アジサイの穏やかな色が目にやさしい季節になりました。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

6月10日は「時の記念日」です。西暦671年のこの日、天智天皇が「漏時（ろうこく）水の流れで時刻を測る時計」を設置して人々に時を知らせたことにちなんで、大正9（1920）年に制定されたそうです。

町にも忘れてはならない6月10日があります。それは、昭和20（1945）年、終戦の約2か月前に起こりました。

●6月10日

土空空襲

当時土浦海軍航空隊（土空・現陸上自衛隊武器学校一帯）では、甲飛15期・16期予科練生が訓練を受けていました。ほかにも幹部・職員・教員・予備学生・技術者——などがあわせて約3000人ほどが在隊していたようです。その日は日曜日で、少し暑いくらいのお天気だったといえます。予科練生にとって、日曜日は隊の外に出てほっと

一息つける待ちに待った日で、「早朝よりなんとなく浮き浮きした雰囲気」（甲飛第13期高橋三朗氏談）であったようです。

一方、練兵場（グラウンド）では、朝7時より、本土防衛のため水上特攻隊に選ばれた甲飛第14期の予科練生たちが、転隊を前にして教官から訓示を受けていました。隊門の外では、彼らと最後の面会をするために早朝から家族が集まってきていました。さ

まざまま思いが交錯する日曜の朝、それは起こりました。

午前8時前と9時ごろの2回にわたり、土空を目標としてB29（米軍の長距離爆撃機）およびP-51（同軍一人乗りの戦闘機）の大編隊が飛来しました。B29から次々と落とされる爆弾は地面に落ちて爆発し、爆風や爆発による火災を引き起こしました。また刃物のような破片が弾丸のように勢いよく飛び散り、地域住民や面会の家族を含め多数の在隊者を傷つけました。この爆撃で、土空はその機能を失うほど大きな被害を受け、隊内には身元がわからなくなるほど損傷した死体や肉

片が散らばったそうです。また、第一次爆撃の際、青宿の鹿島神社近くの大型の防空ごうが被弾、避難していた多数の予科練生が生き埋めとなり亡くなりました。



▲土空空襲の様子（「阿見と予科練」より）

空襲被害者のほだいを申した法泉寺（土浦市大岩田）の調査により、この空襲によって予科練生を含めた土空関係者281人が亡くなったことがわかっていきます。しかし、空襲の衝撃や、間もなく迎える敗戦によって米軍が進駐してくるなど混乱が続いたこともあり、被害者の正確な人数は現在も定まっています。

（7月号に続きます）

**特別展開催！
お手伝いして下さる人を募集します**

8月に予科練をテーマにした特別展を予定しています。開催にあたり、展示の準備・片付けなどにボランティアとしてお手伝いして下さる人を募集します。

▼日時 7月27日（金）～8月30日（木）のうち週2～3日程度（土・日を含む）。午前9時～午後5時（午前のみ・午後のみも可）

※応相談

※日時は準備・片付けを含むもので、特別展の日時ではありません。詳細は後日お知らせします

▼内容 資料展示・片付けアシスタント（力仕事有）、展示監視、会場案内など

▼募集人数 15人程度

▼申込方法 6月20日（水）まで（必着）に、参加可能日時を明記した用紙と履歴書を左記に郵送する

▼送付先 〒300-0039

2 阿見町中央1-1-1 予科練平和記念館整備推進室